

平成19年度「科学技術連携施策群」のとりまとめ方針について

1. 「科学技術連携施策群」(以下「連携群」という。)については、平成17年度より開始され、順次、連携群及び補完的課題の追加がなされてきたところ。
本年度は、平成17年度に開始された連携群のうちの一部で、補完的課題(3ヶ年)が終了することにより連携群としての役割に区切り。
そのため、本年度は、昨年11月にとりまとめられた「科学技術連携施策群の成果及び今後の課題と進め方」(中間報告)も踏まえ、本年度で補完的課題が全て終了する連携群(3群)についてとりまとめを行う予定。その後は、順次、補完的課題が終了する連携群について毎年度とりまとめ。
2. 具体的には、同中間報告の目次構成案を踏まえ、次ページの事項について簡潔に整理。
なお、本年度より補完的課題が開催された連携群(6群)については、来年度で補完的課題が全て終了する連携群(5群)のとりまとめと併せて、中間的などりまとめ(中間報告)を行う予定。
3. スケジュールについては、まず、本日開催する分野別推進戦略総合PTにおいて標記とりまとめ方針の確認を行う。次に、来年2月～4月にもとりまとめ作業を行い、その後に開催される(6月頃：補完的課題の年度報告書が文科省に提出されるのが5月末予定のため)分野別推進戦略総合PT等において報告。

目次構成（案）

- 本年度で終了する群 -

1. 科学技術連携施策群について

- (1) 制度の目的と手法
- (2) 連携施策群の対象テーマ
- (3) 推進体制
- (4) 補完的に実施すべき研究開発課題（補完的課題）の実施

2. 各科学技術連携施策群の活動と成果、研究目標の達成状況の評価

[各施策群毎に記載]

- (1) 連携施策群の目標
関連分野等における当該連携施策群の位置付け（戦略重点科学技術との関係、政策目標との関係含む）及び明確な研究目標（方向性と具体的成果、評価指標）を記載するとともに、目標をたてた背景（開始時の状況と問題点等）についても併せて記載
- (2) 連携施策群の活動
府省間等の連携活動
 - ・ 連携システム及び連携活動の総括
マッチングファンドや合同検討委員会の設置、関連技術マップ等の作成・共有化・活用、連携促進のための関連施策、地域における連携活動等の具体的な活動成果を記載
連携の最終的な俯瞰図（本連携群に登録された各府省の施策間、及び補完的課題との関係を俯瞰した図）を含む
連携施策群に含まれている府省施策の一覧表（施策名、施策期間、担当府省、各年度の予算額、政策・成果目標及び目標達成状況等記載したもの）を含む
 - 補完的課題の成果概要
 - ・ 課題の概要
 - ・ 成果の概要
成果の詳細（研究成果報告書ではなく数頁程度のものを想定）については別途資料を添付
- (3) 連携施策群の成果と研究目標の達成状況の評価
連携施策群としての具体的な成果を記載して研究目標（方向性と具体的成果、評価指標）の達成状況について評価するとともに、目標どおり（又は目標以上に）達成された背景や理由等を記載
上記と併せ、残された課題や問題点、残された原因／理由等についても具体的に記載
【成果の例】新たに付加された価値・成果、調整により改善を行った施策、新たに連携を行うこととなった施策、不必要な重複の排除を行った施策、予算の効率化（削減）を行った施策、成果の社会への還元加速化（開発時期の早期化等）等
【残された課題や問題点等の例】関係者間での情報交換や交流は進んだものの、予算の効率的・効果的な利活用や開発時期の早期化といった情報交換や交流以上の具体的成果が見られなかった 等
- (4) 今後の課題
今後の連携方策を含めて記載
残された課題や問題点等に対して考えられる対応策についても記載
- (5) 参考
 - ・ 全体をまとめたポンチ絵を作成
目標 - 活動 - 成果と研究目標の達成状況の評価
主な具体的成果の事例（1つ以上）

3. とりまとめ（残された課題含む）

今後の進め方、残された課題等を含めて記載

科学技術連携施策群一覧

平成19年8月3日

連携施策群	連携施策群テーマ 【コーディネータ】	課 題 採択課題名	H17	H18	H19	H20	H21
ライフサイエンス P T	新興・再興感染症 【倉田 毅】	ウイルス伝搬に関する野鳥の飛来ルートの調査とそれらの野鳥における病原体調査及びデータベース構築 野鳥由来ウイルスの生態解明とゲノム解析	52	117	117		
		高度安全実験(BSL-4)施設を必要とする新興感染症対策に関する調査研究 BSL-4施設を必要とする新興感染症対策		77	120		
	生命科学の基礎・基盤(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【五條堀 孝】	ライフサイエンス分野のデータベースの統合化に関する調査研究 生命科学データベース統合に関する調査研究	52	117	117		
	食料・生物生産研究(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【小川 奎】	持続的植物生産のための植物・微生物相互作用の解析研究 植物・微生物間共生におけるゲノム相互作用					
	臨床研究・臨床への橋渡し研究(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【松澤 佑次】	若手医師の臨床研究者としての育成プログラム開発 遺伝子・細胞治療に携わる臨床研究者育成					
情報通信 P T	ユビキタスネットワーク 【齊藤 忠夫】	医療分野における電子タグ活用のための実証実験 医療分野における電子タグ活用実証実験	51	156	117		
		ユビキタスネットワークの斬新な活用研究・実証 電子タグを利用した測位と安全・安心の確保		118	120		
	次世代ロボット 【佐藤 知正】	環境の情報構造化プラットフォームの基本モデルの研究開発 ロボットタウンの実証的研究	25	65	65		
		蓄積と再利用可能なロボット用ソフトウェア基盤の確立 分散コンポーネント型ロボットシミュレータ	26	52	52		
		室内外を移動する人にサービスを提供するための環境情報構造化プロジェクト 施設内外の人計測と環境情報構造化の研究 作業空間における物体操作のための環境情報構造化プロジェクト 環境と作業構造のユニバーサルデザイン		70	70		
情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発 【西尾章治郎】	次世代情報環境におけるコンテンツ処理及び知識処理技術開発 センサ情報の社会利用のためのコンテンツ化						
ナノ/材料 P T	ナノバイオテクノロジー 【梶谷 文彦】	分子イメージングによるナノドラッグ・デリバリー・システムの支援 超臨海ハイブリッドイメージングと治療法	26	65	65		
		ナノバイオセンサ 独自のホール検出システムと磁性ナノビーズを用いた超高感度バイオセンサの開発	26	52	52		
		分子イメージングによるナノ・ドラッグ・デリバリー・システムの支援 1 遺伝子可視化法による遺伝子ベクター創製		60	60		
		ナノバイオセンサ 生体内分子を可視化するナノセンサ分子開発		35	30		
		ナノバイオセンサ 精密構造識別型の電気・光応答バイオセンサ		30	30		
		ナノテクノロジーの研究開発推進と社会受容に関する基盤開発 【中西 準子】	ナノテクノロジーの研究開発推進の共通基盤となるデータベース指標の構築に向けた調査研究 社会受容に向けたナノ材料開発支援知識基盤				
	ナノ/材料P T & エネルギーP T	水素利用/燃料電池 【本田 國昭】	地域等における水素利用システムに関する概念検討 地域水素エネルギー利用システムの研究 需要家用水素計量システムに関する研究開発 需要家用水素ガス計量システムの研究開発	25	52	52	
環 境 P T	バイオマス利活用 【鈴木 基之】	バイオマス利活用事業に関する持続可能性評価手法の開発 バイオマス利活用システムの設計・評価手法	52	117	117		
		バイオマス利活用事業に関する持続可能性評価手法の開発 地域完結型地燃料システムの構築と運営		119	120		
ものづくり技術 P T							
社会基盤 P T	テロ対策のための研究開発 - 現場探知システムの実現 - 【森地 茂】	放射性物質の探知技術に関する研究 手荷物中隠匿核物質探知システムの研究開発					
フロンティアP T							
地域社会科学技術 クラスターP T	地域科学技術クラスター 【清水 勇】	地域の視点に立った効果的な地域科学技術クラスター形成のための調査研究 地域イノベーションの構造分析と施策効果	52	117	117		

: 平成20年度当初にもとりまとめる
予定の連携施策群 [3 群]

: 平成17～19年度
 : 平成18～20年度
 : 平成19～21年度